

令和２年度
事業報告書
(令和２年４月１日～令和３年３月３１日)

社会福祉法人あいあい福祉会

特別養護老人ホーム みず和の郷

ショートステイ みず和の郷

居宅介護支援事業所 みず和の郷

社会福祉法人あいあい福祉会

【法人基本理念】

『共に生きる しあわせ』

【みず和の郷基本理念】

- 1、 お年寄りが人としての尊厳をもって地域や施設の中で、その人らしい 自立した生活を送れるように支えていきます。
- 2、 職員が和を持ち、「奉仕・愛情・信頼」の心を根幹として、毎日が心豊かな日々でありますよう全力をあげてお守りいたします。
- 3、 施設が地域住民・関係団体と活発に交流し、地域と共に生きることを目指していきます。

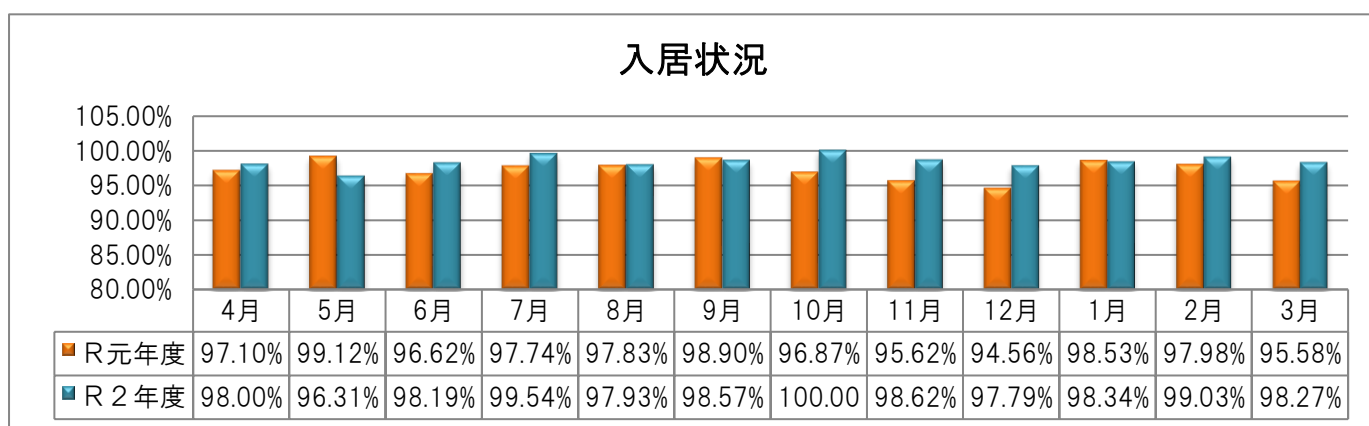
【みず和の郷基本方針】

- 1、 お年寄りの人権を守り、心身ともに健やかな生活を営むことのできる生活支援の取り組みに努める。
- 2、 お年寄りと職員が、介護を通じて相互の信頼関係の強化に努める。
- 3、 お年寄りと職員が、共に生きる喜びをあげようことのできる施設造りをする。
- 4、 職員すべては、その職務において介護の専門性を向上させるため、学習とその実践に邁進する。
- 5、 お年寄り一人ひとりが豊かな生活の確保と地域社会に参加できるように支援する。

《支援部門》

1、特養入所状況

	入居者（人）			延べ日数	居室稼働率		入居者（人）			合計	居室稼働率
	入居者数	入居	退居	合計			入居者数	入居	退居		
4月	70	2	0	2,058	98.00%	10月	70	0	0	2,170	100.00%
5月	69	2	3	2,090	96.31%	11月	69	1	2	2,071	98.62%
6月	70	1	0	2,062	98.19%	12月	70	1	0	2,122	97.79%
7月	69	0	1	2,160	99.54%	1月	70	2	2	2,134	98.34%
8月	70	1	0	2,125	97.93%	2月	70	1	1	1,941	99.03%
9月	70	1	1	2,070	98.57%	3月	69	0	1	2,103	95.58%
合 計	令和元年度 月平均稼働率 96.89%										
	令和2年度 月平均稼働率 98.27%										



平均稼働率は 98.27%であり、前年度比 1.38%増加している。看取り介護者の栄養食内容を見直し、経口摂取期間を維持することで体調の安定を図れたことが稼働率に反映された。
前年に比べ、退所者数が半数以下であったことも、稼働率上昇に繋がった。

入院者数・延べ日数

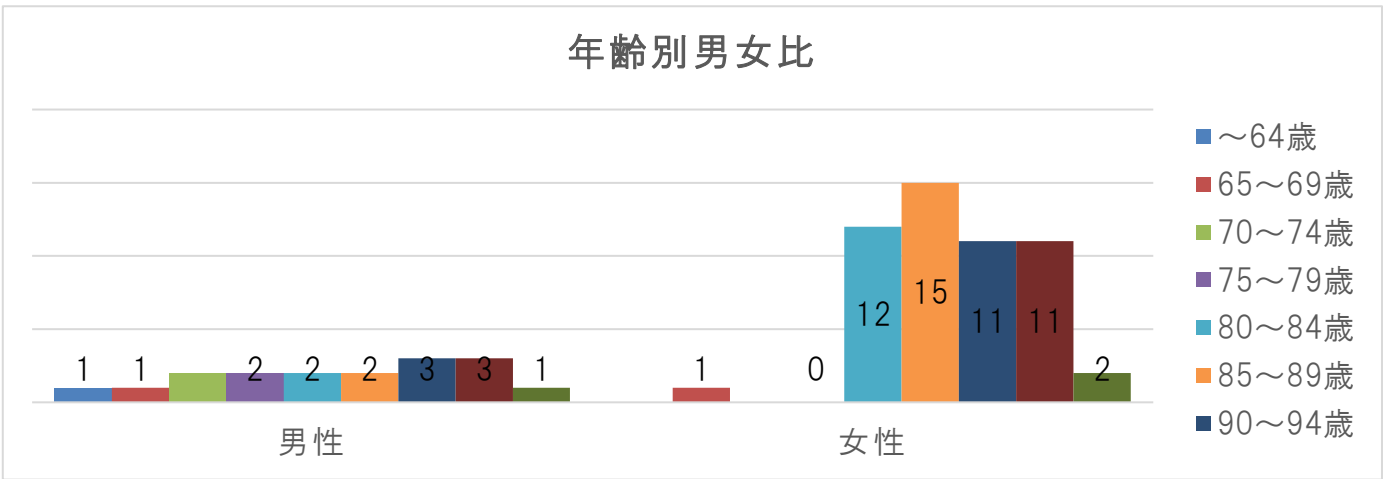
R元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	3	3	5	4	3	1	2	6	7	7	4	3	48
延日数	61	15	54	39	30	11	47	89	107	82	39	42	616
R2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	1	4	0	0	4	1	0	4	2	1	2	4	23
延日数	40	81	0	0	65	9	0	77	25	16	24	75	412

退院調整のため病院ソーシャルワーカーとの細やかな連携により、病状安定確認と共に空床期間短縮を目指し退院に向けたスムーズな対応を実施した。

2、在籍者別年齢・要介護度等



平均介護度 4.16 （男性 3.94 、女性 4.23）



平均年齢 88.1 歳（男性 84.6 歳 、女性 89.3 歳）

・在籍日数が伸びることで年齢、介護度は必然的に上がり、令和 3 年度には 100 歳を迎えるご利用者 7 名の在籍が見込まれている。超高齢化、重度化が年々進むと共に月平均 10 名の看取り介護者を抱えながらの介護となっている。

3、在所期間入所者状況 (人)

	1 年未満	1 年以上 3 年未満	3 年以上 5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上 15 年未満	合計
男性	3	8	3	2	1	18
女性	9	22	12	8	1	51
合計	12	230	15	10	2	69
割合 (%)	17.4%	43.5%	21.7%	14.5%	2.9%	100%

平均在所日数	男性	女性
3 年 1 ヲ月	2 年 11 ヲ月	3 年 2 ヲ月
最高在所日数	12 年 1 ヲ月	14 年 5 ヲ月



5、令和2年度特養活動報告

I. 介護支援専門員

- 令和2年度各種集計結果より、稼働率上昇の一番の要因として看取り介護者の経口摂取維持に取り組んでいることがあげられる。超高齢化、重度化に伴いご家族が施設で看取り介護を希望されるご入居者が多くなっている。水分から段階を踏んで栄養食を提供、経口摂取を維持することで体調の安定を図ることができている。
看取り介護における食事は1日数回分割提供するため、他利用者に比べ介護に時間を要する現状にある。
- カンファレンス参加をケース担当者に変更することで、プラン作成参加の理解を深めると共に各ユニット職員へ周知を図る一歩となった。
- 24Hシートの作成についてはユニット主導にて作成しているが、介入し作成完了することはできなかった。
- 相談員と連携し、ご家族への連絡を適切に細やかに実施すること面会できない現状でも安心していただける体制を整えた。

II. 生活相談員（特別養護老人ホーム）

年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2
居室稼働率%	97.75	97.26	97.07	96.89	98.27
入所者数	14	27	19	24	12
退所者数	14	18	18	26	11
平均介護度	3.99	4.01	4.04	4.08	4.12
入院実人数	30	34	40	46	31
入院延日数	417	499	640	587	354

※平成28年2月より看取り介護加算の追加

※平成29年12月けやきユニット10床オープン（10名入所）

- 昨年度と比較し、平均介護度が上昇しているが、入退所者数の減少と入院延日数の減少、次期入所者が速やかに入所できるよう早期対応に努め、居室稼働率98.27%と高稼働率を維持することができた。
- 松川在住の方の入所が41%、当法人サービス利用歴のある方入所が58%と高く、当施設を理解して頂いたうえで入所に繋げていくことができた。
- 多職種協働で、入所者・家族が不安なく日常生活を送れるよう支援することができた。
- 新型コロナウイルス感染予防の観点から、家族へ面会制限をお願いしたが、9月よりオンライン

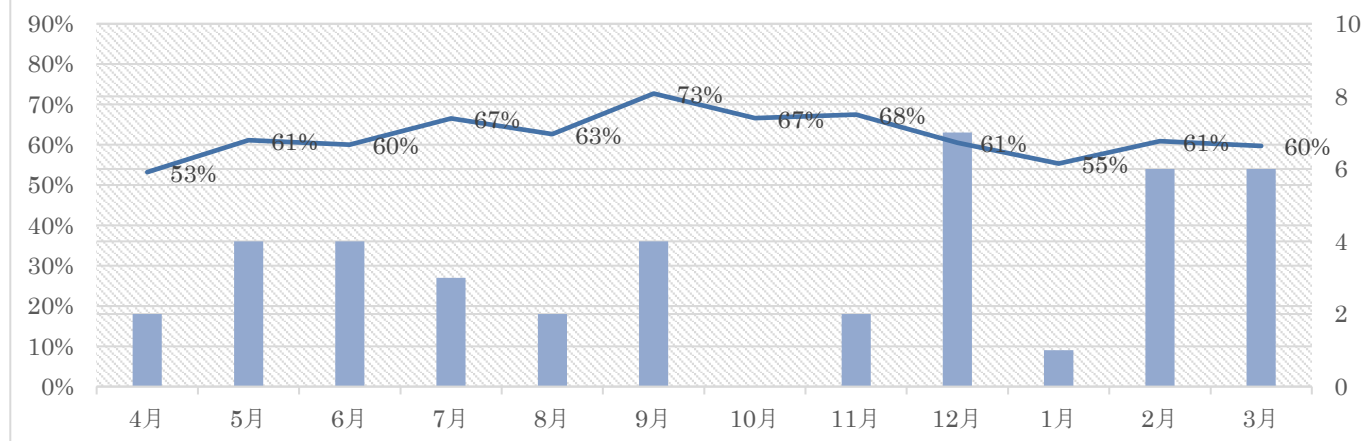
ン面会を開始。直接会えないことによる家族の不安が少しでも解消できるよう、今まで以上に細やかな情報提供に努めた。

- ・入所者の重度化に伴い看取り介護対象者が増加しているが、一人ひとりの体調に応じ細やかな介護を行ない、最期まで安心した生活が送れるよう努め、退所者数の減少に繋げていくことができた。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行で、医療機関の受け入れが難しくなっているが、早めの判断で医療機関受診することで治療期間も短く早期退院できるよう調整に努め、入院延日数の減少に繋げていくことができた。
- ・第46回福島市福祉作品展へ各ユニットと個人で作品を出品。特別養護老人ホームで福島市議会議長賞・個人で努力賞と2作品受賞。施設全体で取り組み、地域へ当施設をアピールすることができた。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行で、地域行事への参加やボランティアと介護等体験実習生の受け入れが予定通り実施できなかった。（下記表参照）

6、ショートステイ実績

月 理由別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者 数	男	15	15	14	16	13	21	20	16	15	13	13	15	186
	女	20	22	24	26	29	24	24	29	26	24	27	29	304
延べ 利用 日数	支1	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	22
	支2	27	15	12	13	11	12	14	13	14	15	12	23	181
	1	31	35	41	48	55	43	68	57	44	41	34	45	542
	2	66	79	71	76	71	74	42	65	98	92	58	52	844
	3	97	98	85	108	70	99	74	48	30	27	44	44	824
	4	53	75	36	56	56	95	73	68	86	106	104	101	909
	5	45	62	115	111	125	113	142	154	103	62	89	98	1219
	計	319	379	360	412	388	436	413	405	375	343	341	370	4541
稼働率	%	53.2	61.1	60.0	66.5	62.6	72.7	66.6	67.5	60.5	55.3	60.9	59.7	62.2
男性平均 82.0 歳 女性平均 85.8 歳（全体平均 84.5 歳） 最高年齢 98 歳 最低年齢 46 歳														

令和2年度 ショート稼働率及び新規利用者数



【居宅介護支援事業所名】	(人 数)	(定期)	あだたら荘指定居宅介護支援事業所	2	
ライフ・タイム福島居宅介護支援事業所	9		エルダーランド居宅介護支援センター	2	
リブレ松川居宅介護支援事業所	7	2	居宅介護支援事業所 シニアガーデン	2	
あづま脳外居宅介護支援事業所	5	3	ケアサービスセンターみどりの郷	2	
ケアプランセンター小倉寺	5	2	ケアプランセンターまど	2	
指定居宅介護支援センター松陵	5	2	まごころケアサービス二本松	2	
居宅介護支援事業所はなしのぶ	5	1	指定居宅介護支援事業所あだたら	1	1
居宅支援事業所にほんまつ・あだち	5	1	優心指定居宅介護支援事業所	1	1
つどい支援事業所 福島	5	1	介護支援事業所さわやかアイリス	1	
ライフ吉井田居宅介護支援事業所	5	1	居宅介護支援事業所なごみ	1	
ふくしま訪問看護ケアプランセンター	4	3	けやきの村指定居宅介護支援事業所	1	
すかわ指定居宅介護支援事業所	4	1	しのぶ病院居宅介護支援事業所	1	
指定居宅介護支援事業所 ひまわり苑	3	1	ハッピー愛ランド	1	
よろこび介護支援センター	3	1	ふくしま緩和ケア	1	
愛の里居宅介護支援事業所	3		【地域包括支援センター名】		
ニチイケアセンター南福島	3		蓬萊地域包括支援センター	2	
アグリホーム指定居宅介護支援事業所	2	1	松川地域包括支援センター	1	1
居宅介護支援センター グリーンライト	2	1	杉妻包括支援センター	1	

7、令和2年度ショートステイ活動報告

- ・コロナウイルスの流行拡大防止のため、利用前の検温実施を徹底し、37.5℃以上の発熱もしくは体調不良のある方の利用を控えて頂いた。
- また、9月より東北以外の往来、または往来した方との接触ある場合の利用自粛、更に10月からは県北以外の往来、または往来した方との接触ある場合の利用自粛をお願いし、対応した。
- ・レクリエーション、行事面は、『ご飯の日』『おやつの日』等クッキングレクがご利用者の中でも定着してきた。また、ご利用者より「音楽と触れ合う時間」を希望する声が多く聞かれた為、『音楽を楽しむ会』を職員主体となり開催し、アピールポイントとして外部にも発信できた。
- ・苦情に対しては、1年を通し大きなクレームなく対応できた。ご利用者、ご家族からの指摘を頂いた際は、早期に職員間で情報共有を行うことに努め、次のサービス向上に繋がっている。
- ・緊急受入、長期利用、若年層の受け入れ等を調整し、家族・事業所双方のニーズに寄り添えるよう努めているが、稼働率は伸び悩んだ状態にある。空所状況、利用者状況の報告等、ツールを生かした広報を行い、関係機関へのアピールを強化し、新規利用者の獲得、稼働率の回復を次年度の目標とする。

《介護部門》

○しゃくなげユニット

4月	26日 誕生会	10月	4日 誕生会
5月	17日 母の日	12月	20日 誕生会
6月	7日 父の日 誕生会	1月	1日 お屠蘇
7月	6日 紫陽花見学	2月	3日 節分 誕生会
9月	20日 納涼会	3月	14日 外出

《活動報告》

- 1、ご入居者が《今何をしたいのか、どうする事がご本人の為になるのか》を模索し、他のご入居者とのコミュニケーションが取れるよう介入したり、屋上から外の景色を眺めてもらうなど入居者の性格などを考慮し個々に合わせた対応に努めることが出来た。
- 2、ご入居者とご家族の面会の機会が無くなり、ご家族の不安を少しでも払拭できればと、ご家族の窓口来園に合わせ、ミニアルバムを作成しご入居者のお元気な姿をご家族様へ知らせることが出来た。
- 3、毎月のユニット会議の実施が至らず、ユニットケアについての説明や24時間シートの作成に不備が生じていた。
- 4、行事、誕生会の実施においては、予定を立て実施できた。また誕生者ではないご入居者へも役割を考え全員参加型の一体感が都度伺えた。経管栄養のご入居者の参加も会食の場面を省き参加して頂いた、経管入居者が対象の誕生会では目的や内容について改善の余地あり。

○しらかばユニット

5月	24日 母の日	11月	5日 干し柿作り 15日 銀杏並木見学
6月	24日 父の日	12月	27日 クリスマス会 誕生会
	28日 ミニ運動会	1月	23日 誕生会
9月	1日 百寿祝	2月	3日 節分
	7日 敬老会 20日 納涼祭	3月	8日 ひな祭り

《活動報告》

- 1、ご入居者の生活スタイルや意思を尊重した支援を心掛けた。ご利用者によって偏りのない対応を心掛けたが、職員数の関係上全てのご希望に沿うことは叶わなかった。
- 2、ユニット内職員や他部門との情報共有や意思疎通を図るため、様々なツールを使用して行い、連携漏れが無いよう心掛けた。
- 3、清掃、環境整備を担当制にして実施したが、曜日によって業務量に違いがあるため、協力体制を変更した方がスムーズであったと感じる。
- 4、行事を担当制としたが、コロナや予定日の天候などの影響で十分な活動ができなかった。

○さくらユニット

4月	26日 花見外出	10月	7日 紅葉見学外出
5月	17日 母の日	12月	24日 クリスマス会
6月	14日 父の日 あじさい見学	1月	28日 誕生会
8月	隣ユニット合同夏祭り	2月	3日 豆まき
9月	29日 誕生会	3月	3日 ひな祭り

《活動報告》

- 1、ご入居者に合わせたソファやテーブルを購入、設置し、くつろげる空間づくりができた。
- 2、ユニット会議の定期開催ができず、日々の申し送りや、その時々の情報交換が主になってしまった。周知したと思っていても完全に伝わりきらず、ケアに違いが生じてしまっていたこともあった。
- 3、職員一人一人がご入所者の状態把握に努め、様々な気づきがあったことは良かったが、気づきや対応に関しての記録があまり出来ていなかった。
- 4、ご入居者の要望を取りいれた行事を考え実施したが、まだバリエーションが少なく同じ様な内容になってしまう。他のユニットからも情報収集しながら、ご入居者が楽しめる行事を計画していきたい。
- 5、日々の清掃の他、定期的に普段出来ない場所の清掃も実施できた。
まだ、職員内での偏りがあるため、特定の職員に負担がかからない様、全員が当事者意識を持ち実施するようにしていきたい。

○もみじユニット

5月	7日 母の日	9月	6日 土湯足湯ツアー
6月	14日 外出 寿司&たこ焼	11月	15日 誕生会
8月	23日 誕生会	12月	22日 クリスマス会

《活動報告》

- 1、ユニット会議の場で、介護の学習を参考書などを用いての勉強会を開催したり、職員一人ひとりの考えを発表する機会が少なかった。また、ケアに対しそのご入居者に最善にケアを検討する取り組みが十分ではなかった。
- 2、コロナ禍によりご家族との交流や外出等がほとんどできない中、ドライブ等を行うことで気分転換は図れた。
- 3、環境整備については職員が意識して取り組む事が出来た。

○けやきユニット

4月	26日 花見ドライブ	10月	7日 紅葉見学
5月	17日 誕生会 母の日	11月	1日 菊人形見学 誕生会
6月	21日 父の日 紫陽花見学	12月	20日 クリスマス会
7月	12日 七夕 誕生会	1月	10日 新年会
8月	9日 夏祭り 誕生会	2月	14日 バレンタイン 21日 豆まき
9月	3日 ドライブ外出 誕生会	3月	28日 ひな祭り

《活動報告》

- 1、ご入居者の嗜好や心身状態に合わせて対応することを心掛けたが、ほとんどのご入居者がご自分の意思を伝えられない方である為、職員の裁量でユニット行事を企画し、進めることがほとんどであった。
- 2、職員同士連携して業務に従事し、常に全体像を把握して積極的に応援体制を取れていた。
- 3、季節を感じて頂く様掲示物やできる限りの外出などを心掛けたが、コロナ禍もあり十分な活動とまではいけなかった。
- 4、行動制限が多い中行事内容がマンネリ化した傾向がある。次年度は改善したい。

○あだたらユニット

4月	花見	10月	10日 秋祭り 音楽療法
5月	17日 誕生会 母の日		18日 紅葉見学
6月	21日 父の日 誕生会	12月	28日 音楽療法
7月	26日 紫陽花見学	1月	4日 お屠蘇 餅つき大会
8月	23日 納涼祭 夏祭り	2月	7日 節分 誕生会
9月	27日 音楽療法		24日 百寿祝

《活動報告》

- 1、外出行事や計画を通じ、気分転換や生活パターンに飽きのこない活動に積極性を欠いた。
- 2、認知症に関する資料配布、簡単な勉強会を実施。また、介護福祉士取得など、知識の習得に努めることができた。
- 3、各職員が共通意識を持って、毎日整頓、清掃を行うことができた。

○ささもりユニット

4月	11～18日 花見	8月	23日 夏祭り
5月	10日 母の日	9月	3日 買い物外出
6月	7日 ドライブ	11月	28日 調理レク
	10日 父の日	12月	27日 誕生会
7月	9～17日 紫陽花見学	2月	21日 誕生会

《活動報告》

- 1、「PDCA サイクルの定着」に関して、前年度の流れを踏襲し、互いに指摘し合いながらもフォローし合う取り組みが出来た。昨年同様に職員間での情報交換は活発に行えていたので、今後も継続性を持って取り組みたい。また、ケース記録に関してもケアプランに対する評価に相当する内容になってきており、より連動したものとなった。
- 2、「ご入居者が役割を持って主体的に活動できる支援」に関しては、一部のご入居者は大いに主体的な意思活動が行えていたと思う。介助量の多い方に関しても、声掛けや質問によって自己選択・決定していただき、多忙な中でも主体性を意識して支援できていたと思われる。
- 3、目標としていた「快適な家づくり」は、環境整備は依然として課題が残るが、清掃チェック表の活用や改訂を各職員が自発的に取り組んでおり、確実に水準は上がってきていると言える。
- 4、通年の課題である24Hシートの作りこみは、少しずつではあるが各々が時間の合間に作成を進めている状態なので、継続的に取り組んでいきたい。ユニット内での入居者間の交流は増えてきているように思える。リビングでのテーブル配置を一概に固定せず、その日の生活の流れに応じて、新たな関係が構築される場面も見受けられた。

○あぶくま・あづまユニット（ショートステイ）

4月	14日 春巻きの皮おやつ	10月	9日 かぼちゃのムース作り
5月	8日 柏餅作り 10日 母の日	11月	1日 ハロウィンパーティー 13日 かぼちゃ餅作り
6月	12日 きんつば作り 21日 父の日	12月	11日 クーヘン作り 25日 クリスマス会
7月	5日 ちまき作り 25日 縁日	1月	1日 正月行事 14日 さつまいものおやつ作り
8月	14日 ラッシー作り	2月	14日 バレンタイン
9月	11日 さつまいものミルク煮	3月	12日 お好み焼き作り 14日 ホワイトデー 26日 寿司パーティー

《活動報告》

- 1、毎月5のつく日は「ご飯の日」とし焼きおにぎり作りを実施。ご利用者からも「楽しみ」「家ではやれないから」と楽しみにされている方も多く、好評を得ている。
- 2、第1・3週の金曜日は「音楽を楽しむ会」を開催。以前から好評であった「音楽療法」が開催されなくなった事もあり、SSユニット独自の「音楽の日」を開催した。ご利用者からも「声を出せるのは楽しい」「体操もあって身体を動かせるのは気持ちが良い」といった声も頂いた。
- 3、第2金曜日は「おやつの日」とし利用者と季節感のあるおやつを作り、美味しく楽しみのあるレクを行った。ご利用者の残存機能の低下予防、楽しみに繋がった。表情が生き生きとしておりやりがい、役割を楽しんでいただけた。
- 4、コロナ禍ではあるが「出来る事」を職員が考える良い期間であったと感じる。今年度の反省点を踏まえて来年度も利用者と共に楽しめる環境を提供できるように利用者の意見を聞き取りながら対応していきたい。
- 5、ユニット会議時に、受持ちご利用者のケアプランの見直しを実施。職員間での情報共有・意見交換が出来た。
- 6、ユニット会議時に、各委員会の報告を行った。職員の意見を次回の各委員会で伝達共有することが、今後の課題となる。
- 7、心の健康＝体の健康を理解し、ご利用者一人ひとりと積極的に関わる職員の育成。レクリエーションの等を通して更に深めて行きたい。
- 8、入所前・退所後の環境整備・環境美化に努め、心地よく生活して頂けるよう、職員同士声掛けし実施した。職員に差が出てしまったため、全職員で徹底するよう今後も継続して行きたい。
- 9、「報告・連絡・相談」が、職員間で上手く行かず、すれ違いや重複に繋がってしまった。今後は簡単なマニュアルを作成し、何が重要であるかを明確にし、より良い関係を築いて、ストレスの少ない職場環境を作って行きたい。

《看護部門》

○看護活動報告

① 健康状態の把握

介護職員と連携し、健康状態の把握と異常の早期発見に努め、異常時に迅速な対応を行い状態悪化の予防をした。短期入所ご利用者に関しても、早期の対応にて体調悪化の予防に繋がった。

②定期健康診断

入居者・・・年1回の基本健診 新型コロナウイルス感染防止のため中止。

職 員・・・年1回の基本健診 12月に実施した。

腰痛検査年1回 12月の基本健診に実施した。(新型コロナウイルス感染防止のため6月は中止)

年1回のストレスチェックを実施した。

③健康の維持

- ・定期・臨時通院の判断をし、他職種の協力を得ながら行った。
- ・環境調整の指導を行い、体調の変化に注意し疾病予防に努めた。

④感染症対策委員会の活動

教育委員会と協力のもと、吐物処理・感染症の勉強会を開催したが、職員の感染予防に対しての取り組みの見直しが必要。今後再度見直しを行い、問題解決に努める。

⑤新型コロナウイルス感染防止のため、必要な情報提供とアドバイスを行った。

感染者対応シミュレーションを行い、スタンダードプリコーションを周知した。

⑥インフルエンザ予防接種実施・・・11月下旬、12月上旬に実施

⑦令和2年度インフルエンザの罹患者は無かったが、新型コロナウイルス流行に伴い、予防への対応・対策が主となった。

⑧他医療機関、主治医との協力体制

ご利用者様の状態、症状に合わせ主治医や医療機関との連携を図り悪化予防に努めた。

⑨ターミナルケア

看取り委員会の定期的な開催ができた。今後は、看取りに関する勉強会を多くし、職員の意思の統一と積極的な関わり、職員主体の看取り介護となるよう努める。

○機能訓練活動報告

①機能訓練について

- ・ご入居者が可能な範囲でできることを行い、充実した生活を長く続けられるよう援助した。
- ・ご入居者が安楽な姿勢で過ごすことができるよう、クッションの作成やポジショニング・シーティング方法等の伝達を各部門へ行った。
- ・ご入居者の残存機能を把握し、機能・生活動作能力の低下を予防できるよう機能訓練を行った。
- ・身体機能以外にも、安心感を得られるような関わりや楽しく過ごせるようなレクリエーションを実施した。

②機能訓練計画書について

- ・入居前や介護区分変更等の都度更新時に機能訓練計画書を作成し、ご家族に説明を行った。
- ・ご入居者の身体状況の把握、介護職員より生活状況の情報提供を受け個々に合った機能訓練計画書を作成した。
- ・計画書作成後、速やかに訓練を実施するとともに、経過を追って3ヶ月にて再評価し状況に応じて随時更新を行った。

③計画内容

- ・個々の生活状況に応じ、目的や意味のある機能訓練を実施した。
- ・施設内の資源や器具・設備を使用した訓練を実施した。
- ・ご入居者が少しでも笑顔で過ごせる時間が増えるよう機能訓練を実施した。
- ・ポジショニングやシーティングの講習を受け、実践し技術の向上に努めた。

《栄養部門》

- ①健康メニューを取り入れ、食事から健康改善に繋がるよう支援し、健康を意識した食べ方の提案ができるようにする目標に対し、前半は計画的に進めることができた。テーマに沿った食事に関する内容をポスターにして食べ方や食品の組み合わせ方についてのアドバイスを各所に貼り出したり、ユニットで活用したりしていただいた。後半は人員不足でマンパワーが不足し、通常メニューへの切り替えを行ったため、計画に沿った活動ができなかった。
- ②季節の行事食を定期的に提供することができた。
- ③調理・衛生に関する勉強会の定期的な開催や外部の研修会への参加等、スタッフ一人ひとりが技術と知識の向上に努める目標に対し、昨年までのような研修の参加ができなかったため、今後はオンライン形式等も含めた新しい研修の方式での参加ができるよう努めていく。
- ④クリーンタイムを設け、月ごとに清掃箇所を決めて清掃を行い、より一層衛生的な環境を維持できるよう、1日2回（11：30～11：45、18：30頃～10分程度）手が触れる場所を中心に、除菌剤使用し、拭き上げ清掃を行う。また、時間が空いたときに行って欲しい清掃箇所を表にして作成し、順次、計画的に行えるようにした。追加した毎月の清掃箇所は、換気フード、エアコンフィルター、包丁まな板保管庫内清掃、野菜かごの洗浄を行った。
- ⑤ご利用者の体調や食事摂取の状況を把握し、必要時に栄養介入できるよう、他部門と連携を深め、情報を共有し、一人ひとりに合わせた栄養ケアの提供が行えるよう栄養ケアマネジメントを実施。褥瘡改善のための栄養介入は4件中4件において改善がみられた。看取り期の食事においては支援部門がご家族様と連携し食事内容の見極め等の細やかなサポートのもと、食事内容や水分量の調整を行い、食事の枠にとらわれず、個人対応で食事の提供を行うことができた。

《会議、各種委員会報告》

○職員全体会（3カ月毎開催）

6月29日	元年度収支報告、新型コロナウイルス感染拡大防止対策について、身体拘束、虐待防止研修など	12月25日	居宅介護支援事業所開設、新型コロナウイルス感染拡大防止対策、冷蔵庫内の食品管理、介護消耗品について、身体拘束、虐待防止研修など
9月29日	新型コロナウイルス・インフルエンザ等感染拡大防止対策について、各種マニュアル復習、必要なコミュニケーションなど	3月26日	介護報酬改定、居宅介護支援事業所、新型コロナウイルス感染拡大防止対策次年度目標など

○調整会議

4月15日	新型コロナウイルス感染拡大防止対策、今年度行事、リネン、サンクスカードなど	10月16日	各種会議の進行、上半期の反省と下半期の活動、感染症対策など
5月15日	新型コロナウイルス感染拡大防止対策、職員面談、ショートステイ稼働率など	11月18日	人事考課、ショートステイ稼働率向上など

6月20日	次月予定、令和元年度収支報告等	12月16日	記録ペーパーレス、感染症拡大防止など
7月15日	だんらん笹谷職員研修受入、各種マニュアル改定、ショートステイ忘れ物、行事食など	1月15日	次年度計画、自己評価、コロナウイルス対応シミュレーションなど
8月20日	新型コロナウイルス感染拡大防止対策、新たな技能実習生受入、ショートステイ稼働率向上など	2月17日	人事異動、感染症対策、新人研修、新入居者受入体制など
9月16日	オンライン面会、夜間の救急搬送感染症拡大防止対策、災害時の食事や対応など	3月17日	感染症対策、介護報酬改定、保存食、次年度目標など

○ユニットリーダー会議

4月2日	リネン交換、次年度委員会、業務分担、感染症拡大防止など	10月1日	実習生受入、各種情報共有など
5月7日	各種情報共有、ケアプランなど	11月5日	会議の進行、各種情報共有など
6月4日	各種情報共有、感染症拡大防止と入浴介助など	12月3日	各種情報共有など
7月2日	だんらん職員研修受入、各種情報共有など	1月7日	各種情報共有、実習生勤務、服薬ミス防止対策など
8月6日	だんらん職員研修受入、各種情報共有、食前体操など	2月4日	コロナウイルス対策シミュレーション、各種情報共有など
9月3日	新たな介護実習生受入、各種情報共有、災害訓練など	3月4日	介護報酬改定、次年度計画、各種情報共有、施設内研修など

○教育委員会

- ・身だしなみ・挨拶についての声掛けを継続して行った。
- ・施設内研修の時間やアンケート様式など協議を重ねた。
コロナウイルス感染拡大に伴い、開催中止となった研修あり。
- ・確実に基礎知識を身に付けられるように、教育委員会で研修内容を厳選した。
- ・施設外研修に参加した職員による伝達研修を昼礼にて行うようにした。
- ・教材としてレクリエ、ブリコラージュ、月間デイを購入。過去の資料は必要な部分をファイリングした。
- ・職員が参加し易い時間での研修開催を行った。

○感染・褥瘡予防委員会

- ・感染予防に努めた結果、インフルエンザや胃腸炎等の発症は利用者・職員ともになかった。
- ・利用者の感染症の既往を把握することにより、予防対策を個々に検討し、周知に努めた。
- ・嘔吐物処理セットの準備・点検に努め、嘔吐があった場合には使用につなげた。
- ・全職員が、嘔吐物処理セットを正しく使用できるよう周知に努めた。
- ・新型コロナウイルス感染症予防の学習を行い、感染予防に努めた。
- ・10月、11月には、感染症予防（特にインフルエンザ、ノロウイルス）の研修会を開催した。
- ・ご利用者の状態を把握し他部門と連携を図り、早期発見・早期対応・早期治癒に努めた。

- ・褥瘡予防の勉強会を独自に開催できなかったが、排泄介助等の研修会に参加することで褥瘡予防に努めることができた。

○自己評価委員会

12月に各部門代表者およびユニットリーダーが、福島県第三者評価基準を基に、施設サービスや質について評価し、低評価項目を調整委員会にて具体的な改善提案を検討した。

○事故防止、身体拘束防止委員会

- ・危険予知トレーニングを実施し、事故防止に必要な「気付きの力」「想像する力」を養った。
- ・福祉用具点検項目に従い、定期チェックを行った。
- ・事故事例を分析し、再発防止と予防啓発に努めた。
- ・身体拘束防止、虐待防止研修を2回開催し、職員一人ひとりの意識付けと技術や介護観の向上に努めた。
- ・服薬ミスを防ぐため、施設統一のマニュアルを作成した。

○栄養管理委員会

- ・貧血予防や筋力アップ等の設定した目標に沿ったメニューや嗜好調査を行い、楽しみある食事提供を行った。
- ・食中毒予防にとどまらず、季節毎に流行が予測される感染症の衛生勉強会を開催し、委員会発信で食中毒予防と知識向上に努めた。
- ・新型コロナウイルス感染時の食事提供体制についてシミュレーションを重ね、有事に備えた。

○行事委員会

- ・新型コロナウイルスの影響で外出することはできなかったが、ご入居者に季節を感じて頂けるよう工夫し、新たな企画をいくつか実施した。
- ・多職種連携で事前の準備から実行、反省までスムーズに行うことが出来た。また、実施後アンケートを行い、次年度以降に参考となるよう取り組んだ。
- ・施設全体で協力し、福祉作品展に出品することができた。

○看取り委員会

- ・コロナの影響により面会制限を行うなか、看取り者に関し、ご家族の意向に添い納得のいく面会や生活の様子をこまめに説明し、少しでも不安を払拭するよう心掛けた。
- ・ケアカンファレンスを通じ介護計画を基に、職員間の情報共有と取り組みについて話し合いケアに繋ぐことができた。不十分な部分に関しては、都度話し合い今後もしっかりとした情報共有ができるよう対策を検討する。
- ・ふりかえりのカンファ開催が困難な事が多くあり、カンファの内容に関しても見直しをかける機会があまり持てなかった。

○業務改善委員会

- ・業務標準マニュアルを刷新するため、職員アンケートを実施し、実態に沿ったマニュアルを作成することができた。
- 作成する過程において業務を振り返る機会を設けられたことも有意義であった。

- ・オムツ、リネンなどの発注漏れが何度かあり、別職員によるフォロー体制を確立した。
- ・各委員が積極的に参加したため、当初の目標より充実した活動ができた。

○衛生委員会

- ・ストレスチェックの結果や、職員の意見をもとに話し合いをすすめ、職場環境改善に努めた。
- ・新型コロナウイルスの情報をいち早く周知し、感染拡大に努めた。
また、コロナの影響でストレス発散できない職員のメンタルケアを話し合い。少しでもストレスを溜めない生活や考え方の提案を行った。
- ・職場環境の適正化を継続するため、①感染対策②コレステロール③認知行動療法④ストレスチェック平均値の見方⑤アンガーマネジメント⑥アルコール依存症について研修を行った。

○安全委員会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため研修は行わず、看護師による実地指導を適時行うことで安全な吸引実施に努めた。

《ボランティア受入・地域行事・施設行事》

月	ボランティア		地域行事		施設行事
4月	コロナウイルス感染防止の為自粛		コロナウイルス感染防止の為自粛		ユニット毎お花見外出
5月					23日 みず和の郷で田植え
6月					7日 いちご狩り（施設内） 28日 ミニ運動会
7月					5日 ちまき作り 19日 なんちゃってうな井祭り
8月					23日 流しそうめん
9月					9日 敬老会 27日 月見とろろ作り 末日 みず和の郷収穫祭（ユニット毎）
10月					4～18日 紅葉見学 25日 さつまいもで茶巾絞り
11月					8日 干し柿作り 22日 土湯に足湯につかる
12月					6日 イカ人参作り
1月					1日 お屠蘇 4日 もちつき大会 10日 だんごさし
2月					2日 節分
3月		↓		↓	16日 料理クラブ・音楽療法

《研修実績》

月	施設外研修（オンライン）	施設内研修
4月		吐物処理
6月		虐待・身体拘束
7月		感染症対策
10月	排泄介助	嘔吐物処理
11月	褥瘡予防	感染症対策、チームケアとは
12月		虐待・身体拘束
1月		多職種協働のためのコミュニケーション技法理解①
2月		多職種協働のためのコミュニケーション技法理解②
3月	メンタルヘルス・アンガーマネジメント	人権コンプライアンス研修、ユニットケアと個別ケア

《行事食実績》

4月	1日 新年度開始メニュー 健康メニュー：貧血防止	10月	7日 みず和の郷開設記念メニュー
5月	5日 端午の節句 健康メニュー：便秘予防	11月	8日 秋祭り（芋煮）
6月	28日 災害炊き出し訓練メニュー 健康メニュー：筋活ごはん	12月	21日 冬至（かぼちゃ） 25日 クリスマスメニュー 31日 年越しメニュー
7月	7日 七夕メニュー 21日 土用丑の日 25日 天ぷら実演	1月	1～2日 正月おせち料理 3日 三日とろろ 4日 餅つき・雑煮 7日 七草粥 15日 小正月
8月	14日 お盆メニュー 健康メニュー：夏バテ防止	2月	2日 節分 24日 百寿お祝いメニュー
9月	1日 百寿お祝いメニュー 7日 敬老会お祝膳 健康メニュー：骨を強くする食事	3月	3日 ひな祭り 20日 春分の日（ぼたもち）

《支援部門》

- ・福島市と介護認定調査契約を締結し、依頼のあった方の調査を行う。
- ・近隣の居宅介護支援事業所に事業開始の挨拶と連携を依頼する。
- ・地域ケア会議に参加し、民生委員との交流と地域のニーズ調査を行う。